

【三陸沿岸道路(宮古田老道路)】

宮古市立磯鷄小学校の4年生45名が
復興道路の現場で”道づくり”を学習します！！

三陸沿岸道路「宮古田老道路」は、震災復興のリーディングプロジェクトとして、一日も早い完成を目指し、事業を進めています。

このたび、道路の役割や道づくりについて学習するため、宮古市近内地区で施工中の道路改良、橋梁下部工、トンネル工事の現場に、宮古市立磯鷄小学校の4年生が来場しますので、お知らせします。

1. 日 時 :平成29年9月22日(金)9:00から(約60分を予定)
2. 場 所 :国道45号近内地区道路工事施工現場
※宮古市近内第2地割 …”別紙1”
3. 内 容 :道かたちをつくる山の切盛工事について
橋をのせる橋台の工事について
トンネルのつくり方や活躍する機械について
4. そ の 他 :荒天の場合は中止します。
お車は、現地誘導員の指示に従い駐車してください。

※事業概要等は”別紙2__1~5”をご参照ください

【発表記者会:宮古記者クラブ、岩手県政記者クラブ、東北専門記者会】

問い合わせ先

【工事内容について】

●国道45号近内地区道路工事

株式会社不動テトラ現場事務所 電話0193-65-8131


現場代理人 北村 仁 (きたむら ひとし)

【見学会および事業について】

●国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所 電話0193-62-1711(代表)

副 所 長 平岡 弘志(ひらおか ひろし) (内線204)

建設監督官 大鷲 浩己(おおわし ひろき) (内線502)

※三陸国道事務所HPならびに復興道路、三陸沿岸道路については  で検索できます。

現場案内図(近内地区道路工事)



宮古田老道路（宮古中央～田老）の概要

路線概要

三陸沿岸道路「宮古田老道路(宮古中央～田老)」は、宮古市松山から宮古市田老を結ぶ約21kmの自動車専用道路です。

現道の線形不良区間、津波浸水区間を回避し、走行性が向上するとともに、所要時間の短縮により救援物資の輸送拠点となる久慈港と宮古市間のアクセス性向上、救急医療施設への速達性向上等の効果が期待されます。

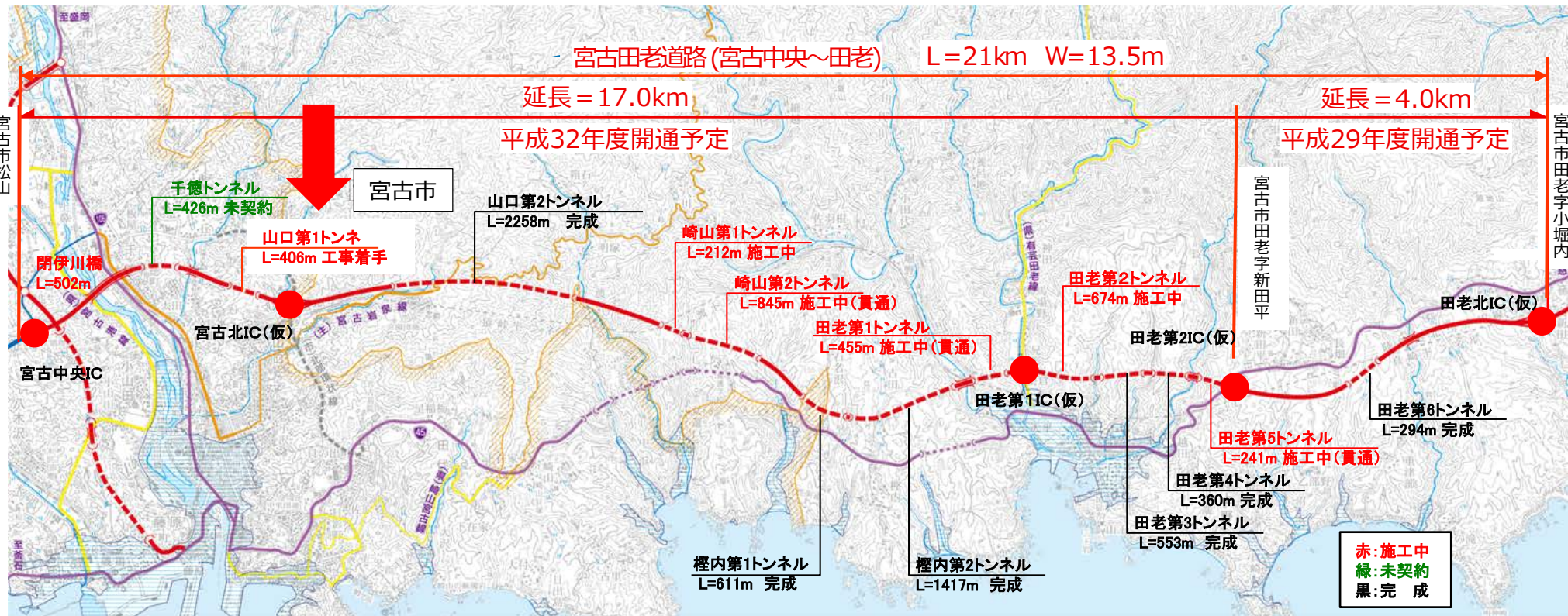
平成29年度は、用地買収、改良工事、トンネル工事、橋梁工事、舗装工事、道路付属物工事を促進し、本年度に田老第2IC(仮)～田老北IC(仮)、平成32年度に宮古中央IC～田老第2IC(仮)の開通を目指します。

計画諸元

宮古田老道路 (宮古中央～田老)	
起 点	宮古市松山
終 点	宮古市田老字小堀内
延 長	21km
幅 員	2車線 13.5m
構造規格	第1種第3級
設計速度	80km/h



宮古中央IC付近(北側を望む)

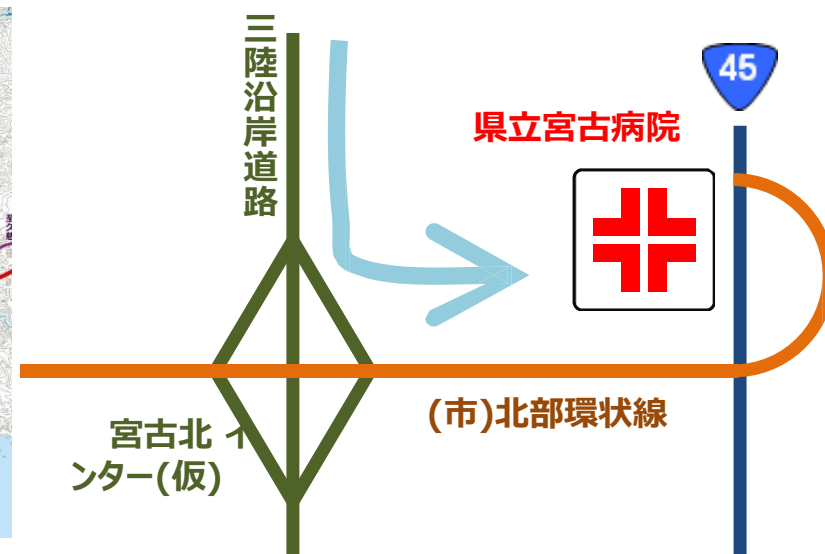


- 宮古保健医療圏(宮古市、岩泉町、田野畑村、山田町)の第二次救急医療施設は県立宮古病院のみだが、国道45号には急カーブ等が多く、救急搬送時に大きな課題
- 宮古田老道路の整備により、迅速かつ安定的な救急搬送を実現し、安全安心な住民生活に寄与

▼ 現道の隘路状況

宮古田老道路 L = 21 km

▼ 宮古病院へのアクセスルート



- : 急カーブ箇所 (平面曲線半径150m未満箇所)
- △ : 急勾配箇所 (縦断勾配5%以上区間)

宮古～田老区間の国道45号

急カーブ箇所
(R < 150m)
24箇所



急勾配箇所
(i > 5%)
28箇所



宮古田老道路

急カーブ箇所 (R < 150m)
急勾配箇所 (i > 5%)
0箇所

岩泉町から県立宮古病院への搬送時間

現在 約50分 ⇒ 将来 約35分

- 東日本大震災では、津波被害により国道45号等の幹線道路の一部が被災し、多くの箇所で通行止が発生
- 宮古田老道路は、大規模災害時でも寸断されない強靱で信頼性の高い道路ネットワークを形成

▼ 宮古市～岩泉町間経路



▼ 津波により寸断された国道

写真① 宮古市田老地区



写真② 宮古市磯鶏地区



- 宮古港～室蘭港間で、新たなフェリー航路が開設(岩手県初の運航)。
- 三陸沿岸道路、宮古盛岡横断道路の整備による、県内各地や仙台圏、首都圏とのアクセス性向上等が航路選定の理由。
- 北海道と東北、首都圏間の交流・物流を活発化させ、東北の復興の加速化に寄与。

■復興道路・復興支援道路の整備とフェリー航路

▼フェリー航路図



▼宮古港周辺の道路整備状況



▼平成27年11月に宮古港でフェリー乗船会が開催され、カーフェリー「シルバークイーン」が寄港



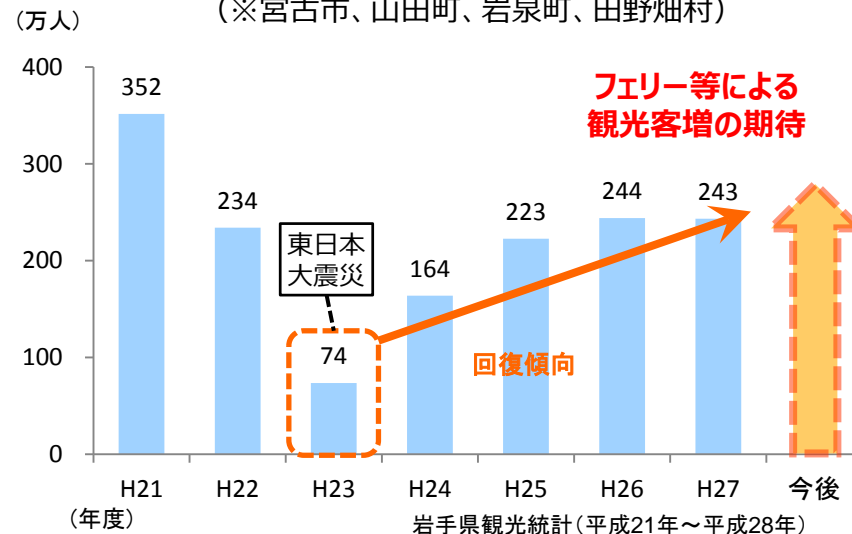
▼航路概要

(川崎近海汽船株式会社プレスリリースより抜粋)

- 開設時期 平成30年6月(予定)
- 運行計画 1日1往復、毎日運行
- 選定理由
 - ①急ピッチで進められている復興道路等の早期開通により宮古港から県内各地や仙台圏、首都圏へのアクセスが大幅に向上
 - ②トラックドライバーの休憩時間8時間を確保できる最適な航路
 - ③両港とも近隣の観光資源が豊富で旅客需要に期待
 - ④自治体がフェリー航路の誘致に積極的であり、トラック事業者等からの期待も大きい。

▼観光入込客数の推移と期待

(※宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)



新たな観光ルートの誕生で観光振興に期待

- 三陸沿岸地域は、ジオパーク、復興国立公園に指定され、魅力的な観光資源が数多く点在
- 三陸沿岸道路の整備で、高規格道路による広域周遊ルートが形成され観光振興に期待

内陸の観光地



八幡平
(八幡平市入込客数
: 175万人/年)



遠野盆地
(遠野市入込客数
: 168万人/年)



展勝地
(北上市入込客数
: 133万人/年)

世界遺産 平泉
(平泉町入込客数195万人/年)



中尊寺



毛越寺



三陸復興国立公園

浄土ヶ浜(宮古市)



(宮古市入込客数: 122万人/年)

船越半島大釜崎 (山田町)



(山田町入込客数: 23万人/年)

碁石海岸 (大船渡市)



(大船渡市入込客数: 100万人/年)

三陸ジオパーク

小袖海岸(久慈市)



(久慈市入込客数: 79万人/年)

北山崎(田野畑村)



(田野畑村入込客数: 55万人/年)

龍泉洞 (岩泉町)



(岩泉町入込客数: 43万人/年)

※入込客数は、平成27年度の値です。

※資料: 岩手県観光統計(平成27年、平成28年)